

九州地方 ESD 活動支援センターの活動の目指す姿について

1. 九州地方 ESD 活動支援センターの活動の目指す姿

■九州・沖縄地方の ESD 推進上の特性について

- ・ 有人の島しょ地域がある。  
琉球諸島、薩南諸島、五島列島、壱岐対馬等
- ・ 唯一無二の自然環境（亜熱帯から温帯にかけての豊かな生物相）が存在し、人の営みと自然の調和が図られている地域が多くある。  
九州各地
- ・ 深刻な公害（水俣病、大気汚染、水質汚濁等）を経験し、環境保全に取り組み、発展している地域がある。  
北九州市、水俣市等
- ・ 平和を希求し、世界に向けて活動を続けている地域がある。  
長崎市、南九州市知覧町、沖縄等

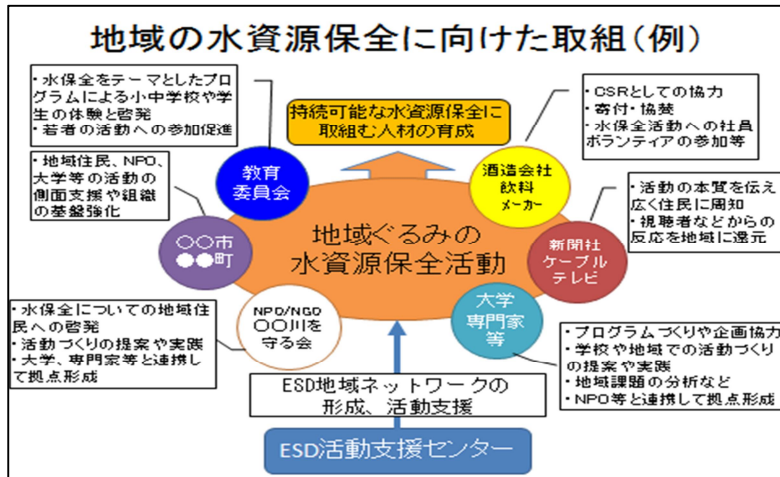
■九州地方 ESD 活動支援センターの活動の基本的考え方（目指す姿）

地域ぐるみの ESD 活動を推進する。

地域の多様な主体が互いに支え合い、協働して環境、経済、社会のバランスを保ちながら、地域の資源を守り次世代に伝える取り組みができるよう、支援に努める。

理由

- ・ ESD は地域の資源、活動、人材等を活用することが重要であるが、九州・沖縄地方にはこうした資源を有している地域が数多くあることから、地域の多様な主体が支え合い ESD を推進する活動を支援することが適当である。
- ・ 九州・沖縄のこうした地域は歴史的背景等から一定程度の社会規模を有しており、地域内での環境、経済、社会のバランスを図るための活動の展開が可能と見込まれる。
- ・ GAP の優先行動分野（地域コミュニティの ESD への参加）に対処することができる。
- ・ SDGs のターゲットの一つである「人々があらゆる場所において、持続可能な開発及び自然と調和したライフスタイルに関する情報と意識を持つこと(12.8)」に貢献できる



## 2 九州・沖縄地方の地域課題の解決に向けた取組み

### ■ ESD 推進上の課題

#### (1) 第1回準備委員会において委員から提示された課題（別添 参考資料1-1）

- ・ 専門家に関する情報が不足している（全国課題と共通）
- ・ 全般的に ESD の認知度が低い（同上）
- ・ 交流の機会が不足している（同上）
- ・ 多様なステークホルダーからなるネットワークがない（同上）
- ・ 活動資金の不足（同上）
- ・ 人材育成機能の不足（同上）
- ・ ユースの参画が少ない
- ・ 島しょ地域の ESD を推進する必要がある

#### (2) 九州・沖縄地方の ESD の活動団体、施設等に係る課題（別添 参考資料2）

- ・ 様々な分野で数多くの市民団体が活動を行っているが、ESD の観点からそれらの活動が把握できていない
- ・ 全国的な先進取組を行っている団体や地域があるが、それが広がっていない  
大牟田市のユネスコスクール（市内の小・中・特別支援学校 ユネスコスクールに加盟）  
北九州 ESD 協議会（国内4番目の RCE。現在 RCE は国内に7か所）  
阿蘇草原再生協議会（多様な主体による自然再生の取組）

#### 九州・沖縄地方の ESD 推進上の課題（特に対応が必要なもの）

- ・ 地域の ESD 活動の情報が不十分
- ・ 活動資金の不足
- ・ 多様なステークホルダーのネットワークがない
- ・ 人材育成機能の不足
- ・ 島しょ地域の ESD 推進が必要
- ・ 先進的取組が広がっていない

### ■ 地域課題の解決に向けた取組み

九州・沖縄地方の ESD 推進上の課題を解決するため、九州 ESD センターの活動の基本的考え方の下、ESD 推進ネットワークの目標と連動して次の事項に重点を置き取り組む。

- ・ 当面は九州・沖縄地方の特性を踏まえた分野の ESD 推進に努める。また、島しょ地域の ESD 推進に取り組む。
- ・ 地域の ESD 活動を把握する
- ・ 多様なステークホルダーのネットワークを構築する
- ・ 人材の育成に取り組む
- ・ 活動資金の支援に結びつく取組みを行う
- ・ 先進的取組の拡大、波及に取り組む